

第 21 回

【テーマ別】

市民と市長のタウンミーティング

～災害に強いまちづくり～

報 告 書

○期 日 平成 20 年 8 月 20 日

○会 場 武 蔵 野 商 工 会 館

武 蔵 野 市

まえがき

武蔵野市では、市民が自らのまちを自らの手で創りあげていく市民自治の基本に立ち、市民と行政が協働でまちづくりを進めていくプロセスを大切にしたいと考えています。

そのひとつの手法として、市民と行政が「同じ目線」「双方向」で地域の課題や市政全般について、率直に意見交換を行う場として、「市民と市長のタウンミーティング」を開催しています。

このたび、テーマ別タウンミーティングの第3回目として、「災害に強いまちづくり」をテーマに、第21回「市民と市長のタウンミーティング」を、武蔵野商工会館において開催しましたので、その結果を報告いたします。

今後は、地域ごとのタウンミーティングとテーマ別のタウンミーティングを織り交ぜながら開催していくことにより、市民の皆様との意見交換をさらに深めてまいります。

概 要

1. 日 時 平成20年8月20日(水)
午後7時00分～9時00分
2. 場 所 武蔵野商工会館 4階 市民会議室
3. 主 催 武蔵野市
4. 協 力 武蔵野消防署、武蔵野市民防災協会、自主防災組織
5. 参加者数 75人
6. 主催側出席者 市長 邑上 守正
武蔵野消防署 警防課長 松縄 忠一
武蔵野市民防災協会 理事長 内田 博
企画政策室長 南條 和行
防災安全部長 堀井 建次
健康福祉部長 三澤 和宏
防災課長 大野 正雄
7. 司 会 企画政策室市民協働推進課長 渡部敏夫
8. 内 容 「災害に強いまちづくり」をテーマとした意見交換を行った。

目 次

1. 発言の要旨.....	1
(1)開会のあいさつ	1
(2)市長説明「武蔵野市の主な取り組みについて」	2
I 防災に関する計画・制度・事業など.....	2
II 市の災害対策・活動について.....	4
III 災害に強いまちづくりに向けて.....	6
(3)武蔵野消防署 警防課長 講話「災害の教訓と対策」	7
I 火災の状況.....	7
II 近年発生した地震の被害と教訓.....	8
III 武蔵野市地域防災計画.....	12
(4) 「災害に強いまちづくり」をテーマとした意見交換(要旨).....	14
1. AEDの設置・建物の耐震助成について.....	14
2. 地域におけるコミュニケーションについて.....	15
3. ハモニカ横丁のインフラについて.....	16
4. 公園内への防災倉庫の設置について.....	16
5. ハモニカ横丁のインフラ整備に関する要望について.....	17
6. ハモニカ横丁のトイレに関する要望について.....	17
7. 防火水槽について.....	18
8. 災害時の障がい者対応について.....	19
9. 御殿山地区の避難経路について.....	20
10. 災害時の小中学生・高校生・大学生の協力について.....	21
11. 境南町4丁目の旧郵政宿舍跡地について.....	22
12. 吉祥寺東町地域における災害対策について.....	22
13. 屋外広告物について.....	24
14. 新型インフルエンザ対策について.....	24
15. ハモニカ横丁のトイレについて.....	25
(5)閉会のあいさつ.....	27

2. アンケートでいただいたご意見と市の回答・対応方針.....	28
3. アンケートでいただいた感想.....	31
【当日配布 市長説明資料】「武蔵野市の取り組みについて」	33

—付属資料—

第21回「市民と市長のタウンミーティング」チラシ

1. 発言の要旨

(1) 開会のあいさつ

【市長】

皆さん、こんばんは。暑い日がまだまだ続きますが、いかがお過ごしでしょうか。これからも、残暑厳しい日が続くと思いますが、どうぞご自愛いただきたいと思います。

今日は、暑い中をタウンミーティングにお越しくださいませ、ありがとうございます。タウンミーティングもおかげさまで21回目です。今まで平均して、毎回100名ほどいらっしゃいます。既に20回開催しているので、約2,000名の市民の皆さんにご参加いただきました。今まで、

コミュニティ協議会との共催という形で地域版のタウンミーティングをずっとやってきましたが、一巡をして、二巡目の地域別のタウンミーティングも行っていくという中で、さらにもう少しテーマを絞って意見交換したらどうかという声もいただきましたので、今年からテーマ別のタウンミーティングもあわせてやっていこうということで開催しています。

これまで「商店街の振興」というテーマで2回行いました。テーマ別の3回目は、「災害に強いまちづくり」です。今日の地震、皆さん気づかれたでしょうか。震度は2だそうです。結構揺れたかと思いますが、茨城県で震度4ということで、その程度の震度でも結構揺れて心配します。

今年は大きな地震が国内外でありました。中国四川省の大地震もまだまだ復興中ということで、これから何年か、かかるかと思います。国内でも幾つかの都市で地震がありました。本市の友好都市である岩手県遠野市でも、今年7月に震度4弱の地震がありましたが、ほとんど被害がなかったとのこと。こちらの地域で震度4を超えるような地震があったら、もっと被害が出てくるのではないかと感ずるところですが、遠野市によると、耐震に強い建物をつくっているから被害が少なかったということです。地震が多いということで、市民の地震に対する意識が大変高い地域だと思います。

武蔵野市でも、ぜひ安心・安全なまちづくりをともに進めていきたいと思っています。今日は防災がテーマです。地震だけではなく、地震・水害・火災等、さまざまな災害からこのまちを守って、被害の少ない、けがの少ない安心して住み続けられるような都市を一緒につくっていききたいと思います。

今日は、武蔵野市民防災協会と武蔵野消防署に協力いただいて、このタウンミーティングを開催しています。さらに、自主防災組織の皆さんにも参加をいただいております。さまざまなご意見をいただきたいと思います。

時間が2時間ほどですが、最初に私と消防署から話をし、それをもとにその後の意見交換をしたいと思います。2時間ですが、密な意見交換にご協力いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



(2) 市長説明「武蔵野市の取り組みについて」

【市長】

武蔵野市のさまざまな取り組みを整理しました。今日は、配布しました資料に沿って、市の計画・制度や災害時の態勢などについて、お話したいと思います。(※当日配布資料については、33～36ページをご参照ください。)

I 防災に関する計画・制度・事業など（最近の取り組み）

1. 武蔵野市第四期長期計画・調整計画

日頃より、防災訓練などで、職員が皆さんのところに出向いていますが、その前提として、さまざまな計画づくり、あるいは制度づくり、あるいは事業等も重ねて行っています。

本年3月に、第四期長期計画・調整計画を策定しましたが、この計画の中では、いくつかの施策の中で、「防災態勢の強化」と「住宅とまちの防災対策の推進」を大きな柱としています。



「防災態勢の強化」は、地域の防災基盤を強化していくということです。消防水利や防災広場など、ハード面での整備していくことと同時に、ソフト的な仕組みづくりを含みます。地域防災力の向上のためには、地域でのさまざまな人的資源の組織化も必要ですので、自主防災組織等の強化をしていこうということが1点目です。

2点目が防災安全センターの機能充実ということです。昨年、市役所西棟を増築して、防災安全センターを開設しましたが、この施設は、いざというときの指揮所になりますので、その機能充実を図るとともに、そこを拠点として、情報の受発信を充実していこうというものです。

3点目として、避難所の整備・運営体制の確立ということがあります。どういう組織にすればよいか、現在、災害時要援護者避難支援モデル事業に取り組んでいます。要支援者への対応を進めていくと同時に、地震の避難所において大きな課題となっている災害用のトイレについて、市としても重視していこうということで、その対策を進めていきます。

「住宅とまちの防災対策の推進」については、まちが地震に強ければ被害を少なくすることができるので、皆さんの関心事は避難所などにあるかもしれませんが、ぜひお住まいの建物の耐震補強を進めていただきたいと思います。公共施設については、市が責任を持って、耐震工事を進めています。小中学校の耐震補強工事も、当初3カ年計画でしたが、国内や中国での地震被害等を踏まえて、2カ年に短縮して、来年9月までには、すべての小中学校の耐震補強を終える予定です。

「都市の防災空間の確保」としましては、今までも公開空地あるいは防災広場、公園等の確保をしていますが、さらにそれを充実していこうということです。

耐震性と同時に「建築物の被災時安全性の向上」として、もちろん防火という観点も必要

ですので、耐震改修計画を定めています。そういうものをベースにして、より建築物の安全性の向上を図るということを調整計画で定めています。

2. 武蔵野市地域防災計画

大きな計画として、「地域防災計画」という計画を策定しています。この計画は、今年、修正が終わって公表していますが、この上位計画として、東京都の防災計画があります。その都の計画との整合性をとった形での武蔵野市の防災計画ですが、地震を中心とした防災計画となっています。例えば、「武蔵野市直下型地震の場合」ということで被害想定をしています。その際、死者 19 人、重傷者 440 人、軽傷者 8,432 人で、これらを合わせて、約 9,000 人になるということは、人口の約 6%の方が何らかのけがをしてしまうということです。



建物については、全壊棟数が 797 棟ということで、市内全体の建物が約 33,000 棟ありますので、約 3%の建物が全壊するという事です。半壊など、何らかの形で建物が傷むという数は、極めて多く予想しており、概ね 1 万棟近くは、地震の被害を受けると予想しています。約 30%を超える建物が何らかの被害を受けようという想定です。火事については、15 軒ほど発生して、2,200 棟ほど火災の被害に遭うと想定しています。

家などが壊れて、避難しなければならない方は、約 49,000 人発生すると想定しています。同時に、武蔵野市の特性として、昼間、市内にお勤めや勉強で来られる方がかなりいますので、帰宅困難者が約 30,000 人出てくると予想しています。避難者が約 50,000 人、帰宅困難者が 30,000 人で、計 80,000 人の皆さんを避難所でお守りすることを考えていかなければなりません。

3. 武蔵野市耐震改修促進計画

防災計画は地震を中心ということですが、今回の見直しにより、付編として、風水害対策を加えました。いかに皆さんの住んでいる建物の耐震性を強化していただくかが大きな課題です。今年、耐震改修促進計画を策定し、公表していますが、耐震化率の目標として、防災上重要な市有建築物は当然のことながら 100%を目指すこととしています。

皆さんがお住まいの住宅は、約 62,900 戸ありますが、現在、耐震化率は 8 割に達していませんので、9 割を超える数字に上げていきたいということです。これには皆さんの自助努力が必要です。次にお話しする「各種支援制度」の中で「①建築物の耐震化促進助成制度」など、さまざまな制度を用意していますので、これらを活用しながら、耐震診断、耐震補強を行っていただきたいと思ひます。

4. 各種支援制度

耐震化促進助成制度に加えて、「②家庭での災害予防助成制度」ということで、ブロック塀

等の改善や家具転倒防止金具の取付補助事業、あるいは、「③水害対策への助成制度」の中で、雨水浸透施設設置助成制度などがあります。雨水をすべて下水処理することはできません。現在、起こり得るゲリラ豪雨に対しては、下水道施設だけでは十分に対応できないのが現状ですので、雨水を下水に流さないような、皆様のご家庭での雨水の地中への浸透にご協力いただきたいと思っております。

5. 整備事業など



昨年、防災安全センターを開設しました。また、防災広場を整備しています。避難所・小中学校・公園等に災害用トイレの設置を順次進めています。小中学校の耐震補強は、来年9月までに全部完成する予定です。あわせて、全小中学校の校庭には、大型の雨水貯留施設の設置を進めています。雨水・ゲリラ豪雨による水害被害をいかに少なくしていくかという取り組みを進めているところです。

防災の拠点となる消防団の詰め所については、老朽化しているところも多々あります。消防ポンプ車も、経年劣化しているものもありますので、防火水槽や消防水利をあわせて、整備充実等を進めているところです。

II 市の災害対策・活動について

1. 災害時の職員態勢

皆さんの安全を守るという使命のもとに、さまざまな取り組みを進めています。いざというときに市の職員がどうやって集まるかといった細かいマニュアルも規定しています。

2. 休日・夜間等における災害発生時の緊急態勢

地震等が発生したときの緊急初動態勢として、初動要員に任命された市内近隣在住職員約160名が、すぐに市内20箇所の避難所に参集して、避難所の開設に向けて準備をすることになっています。当然のことながら、自動的に市の全職員が集まるというケースも想定していて、その訓練も毎年行っています。

3. 防災行政無線

防災行政無線には、警報を発令する機能がありますが、聞こえづらいといった課題もあります。スピーカーの充実や増設を含めて、これからはインターネット社会ですので、メール発信等についても研究を進めていきたいと思っております。

4. 応急給水・災害時用備蓄品

水の問題は、かなり初期から取り組んでいます。応急給水の設備等については、震度5弱以上で7,000トンを確保する



予定です。災害時用の備蓄品についても、先ほどお話しした避難人口 49,000 人の 2 日分は、既に市役所や一時避難場所 31 カ所で備蓄しているところです。

5. 避難所

市立小中学校 18 校と市内 2 つの都立高校が一時集合場所・避難場所になります。その地域にお住まいであれば、ここに行ってくださいということは定めていません。地震の発生状況によっては、避難場所が変わってきます。例えば、避難所近くで火事があったら、適宜判断して、反対の方向に避難していただくことになろうかと思えます。日頃から家族会議の中で、こういうときはこういう場所に避難するか、いざというときの家族間の連絡をどうするかという事は、ぜひ相談しておいていただきたいと思えます。

6. 訓練

現在、さまざまな訓練を実施しています。今年の総合防災訓練は、8 月 31 日の日曜日の午前 9 時から、吉祥寺地区を中心に行います。第三小学校と松井外科病院を使用して、市民参加型の訓練、機関連携訓練を行いますので、ぜひ参加していただきたいと思えます。このほか、日頃、地域でさまざまな訓練があります。見るだけでも構いませんので、ぜひそういうところにお出かけいただきたいと思えます。

地域の訓練については、ご要望いただければ、市の職員がガイドに伺いますので、地域単位でいろんな防災訓練の要望をいただければと思えます。

7. 消防

消防に関しては、武蔵野消防署を中心に体制が組まれています。市内では約 260 名の消防団が日頃からさまざまなパトロールを含めて活躍をいただいています。防火水槽など、消防水利の確保もしています。地域設置の消火器も順次設置を進めているところです。

8. 市民防災協会

102 名の防災推進員の活動拠点となっている「市民防災協会」を中心として、市民参加型のさまざまな活動を進めているところです。防災用品のあっせんも行っていきます。



武蔵野市民防災協会
マスコットキャラクター
「む〜ぼう」

9. 各種協定等

いざというときには、市と市民だけではなくて、市内事業所、周辺の都市や、地方の友好都市との連携が必要であるという認識のもと、米穀小売商組合、地域の百貨店、スーパーや、友好都市、医師会、建設業関係、社会福祉協議会、あるいは、市内の企業など、さまざまな協定を結んでいるところです。

Ⅲ 災害に強いまちづくりに向けて

最後に、私は、まち全体をぜひ災害に強いまちにしていきたいと考えています。防災という守ることも必要ですが、これからは災害の被害をいかに減らしていくか。地震は必ず起こるという前提で、皆さんも認識いただきたいわけですが、たとえ起こったとしても、被害をいかに最小限にしていくのかという観点から、ぜひ協力いただきたいと思います。

地域を挙げての防災力向上という中では、市役所だけでは皆さんの安全・安心は、お守りできません。自分の命、自分のまちは自分たちで守るという考え方のもと、それが地域の安全にもつながっていくということを認識いただいて、ぜひ皆さんのお力をいただきたいと思います。

(3) 武蔵野消防署 警防課長講話「災害の教訓と対策」

【松縄忠一 警防課長】

消防部隊はいろんな災害に出ています。東京消防庁としても、日本全国、あるいは、外国の災害にも対応していますので、その災害から得られた教訓と対策についてお話しします。

まずは、最近の火災の状況についてお話しします。次に、近年発生しました地震の被害とその教訓についてご説明いたします。最後に、武蔵野市の地域防災計画についてお話ししたいと思います。



I 火災の状況

1. 火災による被害状況

今年の武蔵野消防署管内の火災件数については、46件で、前年より11件ほど多くなっています。焼損面積が94㎡ということで、昨年より134㎡、昨日現在で少なくなっています。最近の状況ですが、7月から8月にかけて、吉祥寺東町や杉並区西荻北のほうで、連続放火と思われる火災が計14件ほど発生しています。いずれもぼやで鎮火しているんですが、明け方、自転車やバイクのカバー、古新聞やチラシなどが排出されたごみの集積所などに放火がされている状況です。

消防署では、夜間、警戒を行っていますが、皆さんも、ごみは朝に出していただき、自転車やバイクのカバーは、防災製品がありますので、火をつけても燃えにくいもの、燃え広がらないものをご使用いただければと思います。

今年2名の方が火災で亡くなっているんですが、その概要についてご説明します。今年3月に、桜堤1丁目で発生した火災です。このケースでは、耐火造の3階建て共同住宅の1階部分が10㎡ほど焼損しているんですが、ここに81歳の男性と83歳の女性が逃げ遅れて亡くなっています。

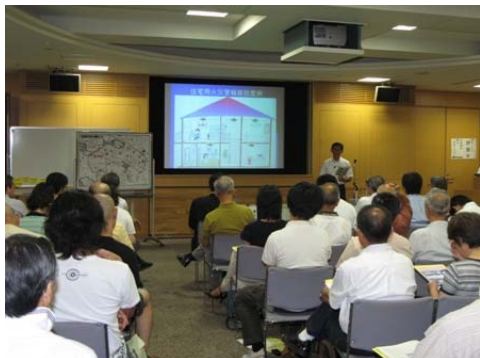
火災による死者の状況ですが、東京消防庁管内のデータになりますが、昨年は114名の方が亡くなっています。そのうち107名の方が住宅火災によって亡くなっています。火災によって死に至った原因を推定すると、発見の遅れが46%で最も多く、その次に、自力避難困難ということで、寝たきりの方や、火災に気づいても逃げられずに亡くなっているという状況です。

2. 住宅用火災警報器の設置促進

住宅からの火災による死者が多いということで、平成16年に東京都の予防火災条例が改正されて、一般の住宅についても、住宅用の火災警報機をつけるということになりました。ビルやデパート、駅舎という不特定多数の方が出入りする建物にも設置されているものと同様の性能を持つ警報機を家庭にもつけるということで条例が変わっています。新築住宅につい

ては、平成16年度から設置が義務づけられています。既にもう家を建てられて住んでいる方については、平成22年度から設置が義務となります。

アメリカはもっと早くて、1970年に始めています。最初は設置率が低かったんですが、約30年たって、94%の住宅に火災警報機が設置されています。それに伴い、火災による死者が下がってきています。



住宅用の火災警報機の種類については、主に、「熱式」「煙式」「火災・ガス漏れ複合型警報器」の3種類があります。台所など、煙がよく発生する場所には熱式のものを使います。電源については、電池式やコンセント式などの方法があります。家の中のすべての居室・台所・階段室に設置するというので、お家の広い方はかなりの数にもなるかと思いますが、3DKぐらいだと通常4つから5つぐらいです。ホームセンタ

ーや家電の量販店、防災設備の取扱店などで取り扱っていますので、ご購入をお願いしたいと思います。また、市民防災協会でも防災用品を扱っています。市のほうで、70歳以上の高齢者のみの世帯や、障害者の方には助成制度がありますので、こちらもご利用いただければと思います。

II 近年発生した地震の被害と教訓

近年発生した地震の被害と教訓ということで、いくつかの地震の事例を踏まえて、お話しします。

1. 中国四川省を震源とする地震

発生日	平成20年5月12日
規模等	マグニチュード 7.9
死者	約69,000名・行方不明 約18,000名・家屋倒壊 約536万棟・家屋損壊 約2,143万棟

今年5月に中国の四川省で大規模な地震が発生しています。死者・行方不明者合わせて8万人以上となっています。日本で起きた最近の震災ですと、阪神・淡路大震災があります。あのときは、6,400人程度の方が亡くなっているんですが、それをはるかに超える10倍以上の方が亡くなっています。国際緊急援助隊が3日後に派遣が許されまして、救助に向かっています。東京消防庁からも6名の隊員が出場しており、そのときに見てきた状況をご紹介します。



事例として、青川県というところの病院の跡ですが、粉々になってしまうというか、崩壊

の仕方が全然違うんです。日本と耐震の考え方が違って、震度 5 程度の地震でも建物が壊れてしまうという状況だそうです。柱はある程度鉄筋が入っているんですが、壁はレンガ積みが多く、ほとんど耐震性がありません。床材は垂れ下がっているような状況です。

北川県にある 5 階建ての中学校です。中学校の校舎が大分壊れたという報道がありましたが、これは 5 階建ての中学校だったんですが、1～2 階が倒壊して、3 階以上の部分が上から乗っかっています。学校ですから、黒板や机があり、1～2 階がつぶれて、その下にとじ込められている人がいるかということで、床を破壊して救助が行われました。教室では、教科書が散乱しています。



鉄筋も少ないんですが、床を破壊してみると、ちょうど机がきれいに残っています。3 階の床が、机が並んでいる上に乗っかってとまっているんです。逆に言うと、この下には空間が確保されていたということです。残念ながら、この学校では、ここで 13 名の方が遺体となって収容されていますが、学校の子供たちには、地震になったら、机の下に潜るといふことにおけば、ある程度の空間が確保できますので、救助される場合もあります。家庭でも、テーブルなどの下にいれば、身の安全を図ることができるという事例です。



2. 宮城、岩手内陸地震

発生日時 平成 20 年 6 月 14 日 8 時 43 分頃

規模等 マグニチュード 7.2 深さ約 8 km 最大震度 6 強 (岩手県奥州市他)

死者 10 名・行方不明 12 名・傷者 231 名・火災 2 件・全壊 2 棟・半壊 5 棟・一部損壊 171 棟

今年 6 月に発生した宮城・岩手内陸地震です。この後も、岩手と青森でも地震がありましたが、ここでも死者が 10 名、行方不明者 12 名ということで、かなりの被害が発生しています。この画像は、駒ノ湯温泉です。斜面が崩壊し、土石流が流れて、沢もせきとめられた結果、水の行き場がなくなって、ぐちゃぐちゃの土砂になっている状況です。その近くにあった温泉の建物について、ぬかるんだ水を含んだ土砂をどかして、中にいる人の救助に当たりましたが、遺体で発見されました。



3. 新潟県中越地震

発生日時	平成16年10月23日	17時56分頃
規模等	マグニチュード6.8(暫定)	深さ13km 最大震度7(新潟県川口町)
死者	40名	・傷者4,510名
火災	9件	・全壊2,774棟
半壊	9,933棟	・一部損壊87,441棟

続きまして、平成16年の新潟中越地震です。山古志村が寸断されたご記憶があるかと思いますが、最大震度が7ということで、阪神・淡路以来の7を記録した地震です。死者が40名ほど発生しています。これが建物の倒壊宅数状況です。

当時2歳の優太ちゃんが救出されたということで感動的な場面があったんですが、この状況について説明します。斜面が崩壊して、道路を走っていた車が埋もれてしまったという事故です。上空から、車の残骸が若干確認できたということで、出場命令がかかって、東京消防庁のハイパーレスキュー隊が出場しています。

これが現場の状況です。非常にもろい岩の性質ということで、いつまた崩れてくるか、余震によって、いつまた二次災害が起きるか非常に危険な状況での活動だったということです。

車が上を向いて埋まっています。近くに行くと、「うーっ」という優太ちゃんの声が聞こえたということです。この斜面ですので、重機も入れないで、ほとんど手作業での発掘作業になります。これが救出された瞬間です。72時間、約4日ぶりに救出されたという出動状況でした。



4. 新潟県中越沖地震

発生日時	平成19年7月16日	10時13分頃
規模等	マグニチュード6.8(暫定)	深さ17km 最大震度6強(柏崎市・長岡市ほか)
死者	14名	・傷者2,345名
火災	3件	・全壊1,244棟
半壊	5,250棟	・一部損壊34,401棟

平成16年の新潟中越地震の3年後、ほとんど近い中越沖ということで、これは原発の火災でまだご記憶にあるところだと思いますが、最大震度が6強ということで、このときも14名の方が亡くなって、2,345名の方がけがをされました。やはり建物の倒壊宅数が多く発生しています。

これも1階に丸きり2階が乗っかっている状況です。

歩道を歩いていた女性が倒壊してきた建物の下敷きになって亡くなっている現場もありました。



外から見ても何ともなさそうな家でも、中を見ると家具が散乱しているという事例がありました。台所の食器棚は、家具転倒防止金具が取り付けていたため、倒れずに済んだとのことでした。



5. 阪神・淡路大震災

発生日時 平成7年1月17日 5時46分頃

規模等 マグニチュード7.3 深さ16km 最大震度7

死者6,434名・行方不明者3名・負傷者43,792名・建物被害639,686棟・火災293件・焼損棟数7,534棟・焼損床面積835,858㎡

今まで見た2件の日本の地震については山間部でしたが、逆に都市で発生した地震としては、平成7年の阪神・淡路大震災を忘れることはできません。死者が6,400人ほど発生しています。それから、負傷者が約43,000人でした。このときの特徴は、293件の火災が発生し、多くの建物が焼損しているということです。地震と同時に多数の火災が発生しています。同時多発火災がどんどん燃え広がって、市街地火災に発展して、まちの至るところで火災が発生したということです。



このときの一つの特徴としては、水道配管が破断して、消防隊が出動しても、消火栓から水が出なかったということで、防火水槽やプールや川を一部使ったんですが、その水もなくなってしまったということで、もう放任せざるを得ない状況になっています。翌朝、丸1日燃えて、ようやく燃え尽きて、焼け野原になっているというまちの状況です。

阪神・淡路大震災はいろんな教訓があるんですが、まず、約7割の方が地震と同時にけがをしている。その原因としては、建物や家具の下敷き、ガラスの接触ということで、70%近くが家具類の何らかの要因によってけがをしているという状況です。



6. 家具類の転倒・落下防災対策

過去のいくつかの地震のデータをとったんですが、家具類の転倒・落下によるけが人がどのくらいいるのかというグラフになります。一番少ない能登半島地震でも29%、このほかの大規模地震では、30~40%の方が家具類の転倒・落下によってけがをしているという結果がでています。

家具類の転倒落下防止対策ということで、固定金具などで倒れにくくすることや、本棚やタンスの下には重いものを置いて、重心をなるべく低くするということが推奨されています。

転倒防止の器具については、いろんなタイプがありますが、「L型の金具」「チェーン方式」「突っ張り棒のポール式」、そのほか特殊なマットがあって、それを家具の下に敷くことによって転倒しにくくできます。一番効くのは、L型金具とかチェーンなんですが、壁の下地の木材がないとなかなかうまく固定できないので、そういうときには、他のものを組み合わせると効果的です。

7. 地震発生時の行動と事前の備え

地震発生時には、いろんな要因でけがをされるということが多いため、地震が来たら、まず身の安全を図ってくださいと呼びかけています。今までよく「地震、火を消せ」ということが言われていましたが、実際は、揺れていると何もできない、火も消しに行けません。火を消しに行こうとしてけがをするよりは、まず身の安全を確保してください。例えば、今のガスコンロですと、マイコンメーターが付いていて、地震が来ると自動的に消火されます。もし地震がおさまってから火がついていたら、消していただくんですが、まずは身の安全を図ってくださいということを推奨しています。



2番目として、揺れがおさまってから落ち着いて、火の元を確認してください。火災が発生しているのであれば、初期消火をお願いしたいと思います。

あとは、地震に対する備えということで、家具類の転倒落下防止などにより、けがの防止対策をしておくようにお願いします。

火災対策ということで、阪神・淡路大震災で市民の消火活動がどのくらい行われたのかのデータをまとめましたが、地震が発生して火を始末したという方が約53%で、2人に1人の方は地震発生後、何らかの火の始末をしています。それから、火災になってしまった場合、その後どうしたかという、消火活動をした方が30%、119番通報した方が9%、何もできなかった方が22%という状況になっています。消火方法としては、消火器55件、バケツリレー47件、消火ホース19件となっています。

家屋の倒壊で多くの方が瓦礫の下に生き埋めになりましたが、そこでどのようにして救助したかについては、自力で出たという方が34.9%、家族によって救出されたという方が31%、隣人・友人という方が28%ということで、消防隊に救助されたケースは1.7%しかいません。震災時には、消防隊も限界がありますので、ぜひ自力または各近隣で救助をお願いしたいと思います。

Ⅲ. 武蔵野市地域防災計画

今までのいろんな地震の教訓を踏まえて、武蔵野市地域防災計画で、減災目標がうたわれ

ています。まず、その1つに、住宅の倒壊による死者の半減、火災による死者の半減ということで計画されており、救出・救護体制の強化など、東京消防庁としても推進しています。もう一つは、住宅の倒壊や火災による避難者を3割少なくするとともに、ライフライン被害等による避難者を7日以内に帰宅させることが目標に挙げられています。

最後に、まとめとして、火災による死者を少なくするためには、「住宅用火災警報器の設置」を、地震による被害を減らすためには、「家具類の転倒落下防止などの事前の備え」「地震発生時は身の安全の確保」「地域防災力の向上」を今一度お願いしたいと思います。

(4)「災害に強いまちづくり」をテーマにした意見交換(要旨)

1. AEDの設置・建物の耐震助成について

【ご意見】

境2丁目で、自主防災組織光和会の会長をしている。私たちは、自然災害の防災と人的災害の防犯の両方をテーマに掲げて運動している。啓蒙活動として、会報を2カ月に1回出しており、毎年1回、武蔵野消防署のご指導のもとに、防災訓練を行っている。また、立川防災館や池袋防災館などに2年に1回ぐらい行って、そこで体験活動をしてくる。最近、防災マップを作ったが、班別の組織体制を書き込むとともに、例えば、災害弱者の方とか、子どもがどこにいるかという情報を書き入れたり、一人住まいの老人の方が倒れた場合の緊急連絡先を書き入れたりして、自宅の電話のそばに置いておいてもらうなどの活動にも取り組んでいる。

避難場所については、一時集合場所があるが、実際に行ってみなければ、どこにあるのかわからないので、会として、夜間に70名ぐらいで歩いて行った。また、市で防災に関する様々な助成をやっているが、火災警報機も70歳以上の高齢者のみの世帯には補助が出る。市から紹介された業者を研究して、会員から55台の申し入れがあったが、会で全部一括して購入した。消火器の購入や家具の転倒防止なども、市からいろいろ援助が出るが、これも会として全部一括して申請した。消火器については、量販店で探して、会で一括して、しっかりしたものを購入した。



現在、初級の救急救命士の資格を19名の方が取っているが、問題はAEDの設置場所だ。武蔵境の全域を調べて、どこにあるかはわかったが、貸し出しを受けるとか、時間外に利用することはできない。私たちはコンビニエンスストアにぜひ置いてもらいたいと考えている。

また、一番大変なのは、建物の耐震がどうしたらできるかということだ。聞いてみると、これはなかなか補助が出ない。いつまでに建てた建物以外はだめだということなので、そうではなくて、もっと積極的に全家庭に対する補助を出していただきたい。

【市長】

境2丁目地域での自主防災活動については大変敬服をする次第ですが、このような取り組みを他の地域にもぜひ参考にしてもらいたいと思いますので、市で情報をまとめながら、何らかの形で情報提供をしたいと思います。

AEDについては、公共施設では設置が進んでいます。しかし、公共施設は、通常の開いている時間しか利用できません。防災課でもいろいろ検討していますが、24時間開いているコンビニなどの施設への設置も今後研究してみたいと思います。そういう場所は、きちんとわかりやすくマップに落とせるといいと思います。全市を対象とした防災マップでは情報が

限られますので、地域限定のマップを各地域で作れたらいいと思います。

建物の耐震補強については、私も課題として考えていますので、従前、昭和56年以前の建物が建築基準法の関係で耐震的には非常に厳しい建物だということで、優先して耐震診断や耐震改修等の費用助成をしていましたが、昭和57年以降に建てられた戸建住宅・共同住宅などについても、耐震診断の費用を助成していますので、ぜひそういう制度をご利用いただきたいということと同時に、耐震に関する相談窓口も予約制ですが、毎週水曜日に実施していますので、ご利用いただきたいと思います。最近、かなり簡便な方法による耐震補強の工事もできるようになっていますので、それらもご案内できるかと思っています。まずは住んでいるお宅を守っていただくことが、私としては最優先の課題だと考えていますので、壊れないまちをぜひ一緒につくっていききたいと思います。

2. 地域におけるコミュニケーションについて

【ご意見】

桜堤に住んでいる。先ほど消防署の警防課長から、今年の武蔵野市での焼死者は2名という話があったが、それは私どもの地域のことだ。団地に住んでいるが、お亡くなりになったお宅は、いわゆる「ごみ屋敷」で、扉が開かないぐらいのごみが詰まっていた。ここが今年の春に火事を起こしたときに燃えたのは、たった3畳だ。ぼや程度の火事で、2名も亡くなっている。私は、1年前にこのごみ屋敷を見つけ出して、整理するように強く進言したが、聞き入れてもらえなかった。公団の管理人にも強く言った。市役所のごみ総合対策課職員にも、そのお宅に行ってもらったが、頑としてプライベートの問題だ、どかすわけにいかないということで断られた。いざ災害というときには、市長の権限でプライバシーをどうにかすることはできないか。プライベートがあまりにも強調されると、コミュニケーションにも影響してくる。災害のときには、消防や警察は大したことはできない。実際は、隣近所、お友達、顔なじみの方々、家族によって救われている。コミュニケーションの阻害要因の一つにプライベート問題があるのではないか。プライベートを金科玉条のごとくあまりに言うのは、行き過ぎではないかと思う。



【市長】

桜堤の大変悲惨な火災で亡くなられたということで、私も心を痛めています。家の中のごみなどについては、行政が直接介入することは難しい課題です。しかし、コミュニケーションを増していくことは大切であり、コミュニケーションを増すことによって、これはもっと整理したほうがいいんじゃないかといったような関係になっていくかと思っています。地域でのコミュニケーションを増やしていくために、市はどのような支援ができるのかを考えたいということと同時に、周辺が不安を抱くような、例えば、外から見て、ベランダに段ボール等の火がつきやすいものがたくさんあったとしたら、放火防止という観点から、撤去をお願い

する対象になり、行政による指導ができると思います。地域の課題は、地域の皆さんと一緒に取り組んでいく姿勢が必要ですので、そういう情報も含めて、市に情報提供をいただければと思います。

3. ハモニカ横丁のインフラについて

【ご意見】

吉祥寺駅前商店連合会としての意見だが、うちのハモニカ横丁は終戦直後からの建物で、インフラが老朽化している。毎年、武蔵野消防署による査察を受けているが、これはうちのほうからお願いしている。ぼやも出ないし、放火も早期発見され、結果的によいのだが、阪神・淡路大震災発生の際の二の舞にならないよう、武蔵野の顔のところにあるマーケットなので、行政の力で、このインフラの問題を早く解決していただきたい。後日、うちの若いチームが皆さんのアンケートをとって、市長にお願いに上がるかもしれないので、そのときはよろしくお願ひしたい。



【市長】

ハモニカ横丁の件は、大きな課題です。個々の建物の建替えが難しいこともあり、いざというときにどうなるのか、私も大変心配しています。点検の対象にはなっていませんが、消防署にご協力をいただいて、防火の指導をしています。そういう点検・指導をこれからも消防署に協力いただき、皆さんの自主的な防災活動にも期待したいということと同時に、市としても、きちんとした消火栓あるいは大型の消火施設等の設置をこれから検討していきたいと思えます。ハモニカ横丁は、吉祥寺の玄関口に位置する大変ユニークな場所です。あそこは今まで何回もどうしたらいいかという議論をしているんです。防災上、大変危険なところというのは皆さんが言うのですが、最終的には、あそこの雰囲気がいいねと、ぜひあそこを守ろうということになってしまいます。現時点では、防災施設の強化ということが可能だと思いますので、それを含めて、今後とも、地元と話し合いを進めていこうと思えます。それから、何か要望があるようですので、随時ご提案いただきたいと思います。

4. 公園内への防災倉庫の設置について

【ご意見】

桜堤3丁目に住んでいる。桜堤コミュニティセンターで開催されたタウンミーティングのときに、桜堤の上水北公園を防災公園にしてほしいとお願ひした。それは市の予算もあることだし、無理かと思ってあきらめたが、ぜひあそこに防災倉庫を1つ置いてほしい。それと、防災器具の一部と少々の工具を置いていただきたい。そのぐらいなら、市の予算でもできると思う。私は、去年7月に、自主防災組織を立ち上げて、11月に消防署と市の防災協会の方の協力を得て、第1回の防災訓練をやったが、今年も第2回の訓練をいろいろ考えているの

で、防災倉庫の件も検討していただきたい。

【市長】

桜堤コミセンでのタウンミーティングのときに、桜堤コミセンの南側にある上水北公園に防災機能を持った広場を整備してほしいという要望をいただきました。これから公園を整備する、リニューアルをしていくときには、必ず防災機能を加味するという方針でいます。防災倉庫の設置については、基本的には避難所等に現在設置しています。桜堤地区には、桜野小学校あるいは第二中学校に現在防災倉庫があるわけですが、桜堤3丁目は、玉川上水を挟んで北側の地域であり、それらの場所から少し離れたところにありますので、コミセン用に置いてある備品をより利用しやすくするという方法と、可搬式消防ポンプは設置が可能だと考えていますので、災害対策用のポンプをその場所に設置していければと思います。



5. ハモニカ横丁のインフラ整備に関する要望について

【ご意見】

ハモニカ横丁の老朽化が進んでいて、ハモニカ横丁を安全・安心に買い物ができる横丁にということで、吉祥寺駅前商店連合会として、要望書をお持ちしたので、読み上げる。「戦後60年、ハモニカ横丁は老朽化の極みにある。一昨年は、下水による沈下、陥没、ガス漏れがあり、昨年は、地盤が2カ所沈下、漏電によるぼやなどがあった。ハモニカ横丁があのままの状態になっているのは、再開発地域のときまでは手をつけない、いずれは新しいビルになるだろうからということだったと思う。60年が経ち、再開発もいつ現実化するかわからない。この横丁には通年多くの人を訪れ、吉祥寺駅前の重要な商業地区でもある。

私たちは決して再開発に反対するつもりはないが、ガス・電気・上下水道等のすべてにおいて劣化が激しく、非常に危険な状態にあり、いつ悲惨な災害が起こるか、日々のニュースを耳にするたびに、ハモニカ横丁のありさまを考えずにはいられない。ここにインフラ基盤を再生して、安全・安心な横丁にしたいと思っており、各役員一同決議した。各関係者各位の早急なるご理解、ご協力を求め、ここに要望書を提出する。

具体的には、武蔵野市より上下水道・東京電力・東京ガス・NTT・武蔵野三鷹ケーブルテレビ等へ早急に現状の報告を依頼していただき、その後、改善方法や見積もり等の試案を作成するにあたり、再生・更生案等を私どもの関係者を含め、話し合う場をつくっていただきたい。武蔵野市をはじめ、各関係機関にもぜひご協力、ご支援をお願いする。」書面をお持ちしたので、後ほど、市長にお渡しする。

6. ハモニカ横丁のトイレに関する要望について

【ご意見】

ハモニカ横丁のトイレについて、もう少し何とかならないか。テナント・大家・一般市民

第21回タウンミーティング
H20.8.20 開催・武蔵野商工会館
意見交換要旨

約1,000名の署名をもらったので、ハモニカ横丁祥和会からの要望書を読み上げる。「吉祥寺ハモニカ横丁の祥和会のトイレについて、皆さん公衆トイレとされているが、これは私的所有のトイレである。これを維持管理し、だれもが利用できるトイレとして、今日まで開放してきた。しかし、近年、整備・維持管理等に問題が多発し、現在、トイレが公共的にふさわしい状況にない。この場所を利用する皆様が安心・安全に利用できる再生を目指し、快適なトイレにしたいという思いで、ハモニカ横丁以下、町内会一同は長年の希望案を4月15日に、『(仮称)ハモニカ横丁内トイレ計画(案)』として決議した。ご理解、ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げ、ここに要望書を提出する。」



理由は3つある。1つは、安心・安全な買い物のできる横丁にしたいのだが、100軒の店舗がある。トイレがないのは60軒ぐらい、飲食でないのが30軒ぐらいある。特に近年、盗撮とか、あるいは、和式トイレしかないので、体の悪い方が、小用を足すほうで足すというような、これはやむを得ないことだと思うが、そういうようなことがある。

もう一つは、かつて北口の「サーティワンアイスクリーム」のところに公衆トイレがあった。これが、20年ほど前になくなったときに、JR近辺に24時間使える公衆トイレをつくるという約束があったようだ。いろんなところでそういう話を聞く。

最後に、東京都福祉のまちづくり推進協議会の平成18年7月の文書の中に、「東京は世界で有数の清潔で安全な都市であり、トイレは、この清潔さが最もあらわれる設備で、まちの品性につながる。」という一文があるが、この中に特に行政とまちの人たちが協力してトイレをつくったらどうだろうか、あるいは整備したらどうだろうかという意見がまとめられている。

市のほうでは、この窓口、あるいはどこに相談したらよろしいのかを答えてほしい。

【市長】

ハモニカ横丁に関しては、要望書を拝見して、検討を進めていきたいと思ひます。地域の方がそういう強い思いをお持ちだということは私も認識しましたので、これからどうやって安心・安全なハモニカ横丁を再整備できるかということについては、話し合いの場をつくって意見交換をしていきましょう。なるべく具体的な行動に移ってほしいと思ひます。

7. 防火水槽について

【ご意見】

中町に住んでいる。私の住んでいるマンションでは、市の指導要綱により、中町北公園という土地を提供している。その公園に、市が消防用地下タンクを設置しているが、そのタンクができてから25年間、一度もその中の水が使われていない。このタンクから、ポンプでマンション用受水槽に水が供給されている。そのため、地下タンクに25年貯まったままの水が

飲料水に混入するおそれがあるが、今後も、使われないという状態が続くと、よくない影響があると思う。

せっかくタンクをつくった以上、定期的に水を入れ替えてもらいたい。また、空にした時点で地下タンクを定期的に掃除していただきたい。マンションの地上の受水槽は毎年1回掃除している。法令上、1年に1回必要なのはわからないが、毎年掃除しているのに、片や入れっぱなしで25年一度も使われていない水が紛れ込んでくるというのは不衛生だし、せっかく上質な武蔵野の地下水がふんだんに入っているおいしい水の味が落ちることもあると思う。

【市長】

中町北公園のお話をいただきましたが、おそらく防火水槽かと思いますので、飲料水にはおそらく混入していないと思います。それも含めてどのような管理をしているのか、市のほうでも点検をしてみたいと思います。(※確認結果については、29ページをご参照ください。)

8. 災害時の障がい者対応について

【ご意見】

吉祥寺南町に住んでいる。私は、ここ10年ほど、障がい者のことについて、地域で関わっているが、災害時のマニュアルの中に、障がい者の視点を入れることが必要だと思う。障がい者というと、一般的にイメージされるのは、身体障害だが、実際に理解されにくいのは自閉症や精神障害だと思う。また、認知症のお年寄りについても、わかる人はわかるが、どう対応してよいかわからない人もいる。こういう人たちについては、災害時、ハードとソフトの両面からの対応を考えなくてはならない。

例えば、自閉症の方の場合、日常生活の中でもタイムスケジュールどおりに1日を暮らさないと、パニックを起こすことがあるので、災害のときは、その人の不安は想像を絶するものがある。その人たちのパニックをなくすことはできないが、周りの人たちが、障害の特性とか、災害時にどう対応したらいいかというマニュアルをつくって、避難所や近所の人とか、そういう人が必要なときに見られる状態をつくっておかないといけない。障害を持つ人たちの不安を少しでも解消して、そのことによってパニックが起きなければ、周りの人も楽なので、マニュアルをぜひつくってほしい。



【市長】

障がい者の災害時の対応についてお話しいただきました。市としても今、災害時要援護者支援という取り組みを進めているところですが、要支援者を手挙げ方式にすると、そういう対象にみずから名乗っていただけないという状況も課題として見えてきましたので、もう少し取り組みを理解してもらおうような工夫もしていきたいと思っております。

一方で、障がい者の通所事業を運営する市内の法人で、今年1月に「障害者自立支援協議会」という組織ができて、そのテーマ別の部会の中で災害時の対策、対応について今年度の主要テーマとしています。その協議会には市の職員も入っていますので、大いに議論をしながら、必要な方針やマニュアル等の整備を研究していきたいと思います。

9. 御殿山地区の避難経路について

【ご意見】

御殿山2丁目に住んでいる。御殿山2丁目は、玉川上水とJRに挟まれた細長い地域であり、災害が発生したときに、避難するにはJR高架の下を通っていかなければいけないが、例えば、JRの列車が停止して、高架がつぶれたら、どうしたらよいか。また、反対側は玉川上水なので、以前、市長が、三鷹駅からむらさき橋までの間に1カ所ぐらい玉川上水を渡る橋があるといいと言ってくれたことがあったが、そのあたりのお考えもお聞きしたい。

現在、横河電機の社宅だったところにマンションが建てられている。そこには以前、水槽があったが、その水槽はその後どうなっているのか。また、御殿山では、日本生命の社宅とJRの社宅の跡地が、広大な空き地になっており、JRのほうは塀に囲まれているが、日本生命のところは、草の丈が2mぐらいに伸びている。閉鎖されてはいるが、もしもあそこに子供が入り込んだりしたら、目につかないのではと不安を感じている。



【市長】

御殿山2丁目については、中央線の南側に位置するところで、北側とは線路によって分断された地域です。避難の際には、必ずしも北に行くだけではなくて、場合によっては三鷹市にも行っていただいても結構です。市域を超えて一番近い避難所に行っていただきたいと思いますが、現在、三鷹駅からむらさき橋の間には、人が渡る橋がありません。御殿山通りは、プロムナード化を予定しています。反対側は三鷹市の「風の散歩道」が整備されていますが、その両方の散歩道を結ぶような中間地点で、何らかの人道橋が設置できないかを東京都にも投げかけています。ところが、ここは文化財であるということで、大きなネックになっています。しかし、市としては、回遊性のあるまちは安全につながっていくと考えていますので、そういう面も含めて人道橋の設置について、これからも東京都や三鷹市とも協議をしていきたいと思っています。

それから、御殿山2丁目には、JR社宅の跡地ということで大きな空き地があります。当初は集合住宅の建設予定がありましたが、持ち主がいろいろ変わって、高い価格で購入したために、事業化がなかなかできないということで、今、止まっている状況です。ただし、敷地は、その持ち主が管理しなければならないことになっています。草ぼうぼう、あるいは、不法投棄物があったらいけませんので、きちんとした管理をするよう、敷地の持ち主に申し伝えたいと思います。横河電機社宅跡の敷地の防火水槽については、今情報を持っていませ

るので、お調べいたします。(※確認結果については、29ページをご参照ください。)

10. 災害時の小中学生・高校生・大学生の協力について

【ご意見】

吉祥寺南町に住んでいる。東京消防庁の災害地震ボランティアをしているが、このボランティアができたきっかけは、阪神・淡路大震災で、消防署や消防団だけでは人手が足りないということが現実にあったからだ。知識と技術を持った一般市民を養成しようということで設置されて、13年たっている。災害はいつ起きるかわからない。日頃、何もないうちにどうしたらいいのか備えることが大事だと思う。自分は応急手当普及員という資格を持っていて、市内の各施設で応急手当の講習会に参加して教えるようにしているが、災害のときに、市内にいる若者に協力を頼まなければいけないこともあると思うので、中学生、高校生、小学校高学年といった層に防災知識をもう少しきちんと普及させてほしい。現在、学校でも応急手当の講習をしているが、全部の学校で行われているわけではないし、学校によっては卒業間際に普通救命資格を取って、卒業式のときに授与するといった状況である。市として、若者にいかに協力してもらえるかということをお考えいただきたい。教材費には補助金が出るはずなので、教育委員会や学校関係は、ぜひ協力していただきたい。



境南小学校がモデル校となっているが、災害時には、市内すべての学校を避難場所として、自主防災組織などの組織づくりをなるべく早く充実したものにできるように行政からもバックアップをしてほしい。

今度も8月31日に第三小学校で総合防災訓練があるが、参加する市民がいつも同じ顔ぶれであり、本当に参加してほしい方たちの参加が少ない。武蔵野市には、せっかく防災推進員の方がいるので、そういう方たちの活動をもう少し充実させてほしい。

【市長】

支援ボランティア活動につきまして、ありがとうございます。いろんなところで活動いただいておりますので、引き続きお願いしたいと思います。応急手当の普及として、若者の参加は私も大切なことだと思いますので、教育委員会にも、こういう取り組みはどうか投げかけてみたいと思います。さらに、武蔵野市の特徴として、昼間は学生の数が極めて多いのです。約3万人近くいます。すでに、亜細亜大学で取り組みを進めていただいております。また、成蹊大学でもNPOの組織があり、そのような形で地域の大学が地域の防災に目を向けていただき始めています。これからも、大いに協力を呼びかけていきたいと思っております。

自主防災組織については、現在も、いくつかの組織には、大変活発な活動をいただいているところですので、それを参考に、他の地域にも広げていきたいと思っております。そういう活動に関わられる方は、他の活動もされている場合も多々ありますが、ぜひ重ねていろんな活動

をお願いしたいと思います。



避難所の開設については、皆さん少し誤解があるかもしれませんが、市が責任を持ってやることになっています。市内20カ所の避難所については、市の職員が初動要員として各8名ずつ駆けつけることになっています。避難所の安全を確認した後、3時間以内に避難所の開設を目指しています。一時避難場所は、基本的に、校庭等の外になります。まずは、校庭等に避難いただいて、学校施設の安全が確認されたら、校舎を避難所として開設しますので、若干時間がかかるというのは皆さんご理解いただきたいと思います。

11. 境南町4丁目の旧郵政宿舎跡地について

【ご意見】

境南コミセンの自主防災組織の代表をしている。境南町には、約14,000人、約7,300戸を代表して、大きく分けて小学校の自主防災とコミセンの自主防災の2つの組織がある。それで、他のコミセンのことも多少は勉強している。境南町4丁目に、旧郵政宿舎の跡地があるが、あれは市が購入するのか、もしするのであれば、あそこを防災の拠点にできないかということのを第一に考えてほしい。

【市長】

境南町での自主防災の取り組み、本当にありがとうございます。境南町4丁目の郵政省跡地という空き地があつて、私ども、何とかあそこが有効利用できないかという強い思いはありますが、いかんせん膨大なお金がかかりそうなので、慎重に検討しているところです。もし安く求められるのであれば、オープンスペースとしては、当然のことながら防災機能を持った利用をしていきたいと思えます。今言えるのはそこまでです。

12. 吉祥寺東町地域における災害対策について

【ご意見】

吉祥寺東町に住んでいる。吉祥寺東コミュニティ協議会として、かなり長い間、防災に取り組んでいるが、市の評価では、危険度が高い地域と言われている。住民としては自覚が薄かったが、南北の道だけが発達していて、東西につなぐ道路がないので、火災が発生した場合の逃げ道がないという問題がある。今から道路をつくるのは大変な気がするので、住民のお宅の裏道をお借りして、災害時にだけは通していただけるようにしておいてほしい。

今、東部福祉の会で災害時の要援護者避難支援事業もやっているが、縦の道しか発達していないところは、助けてあげようという方が近くにいても、ぐるっと回ると大変遠くなってしまうということがあって、逃げ道ができるだけ近いところにあるということが大事だ。

もう一つは、昨年、第三中学校でお泊まり体験をした。三中では、地下2階を避難所としているのは大問題だが、それ以外にも、もしここで赤ん坊が泣き出したら、動揺してしまう

ということで、障がい者以外にも、乳幼児とか認知の方などには、別な場所が用意されるべきだと思う。お寺や教会など他の施設と契約して、万一のときには使わせてもらって分散するようなことも考えていただけないか。

【市長】

吉祥寺東町については、防災の観点からは危険度の高い地域です。町ごとに危険判定がありますので、地区別の資料をコミセンでも掲示していただいて、各地域で、危険度がどれくらいかを認識いただきたいと思います。危険度によって対策が変わってきますので、不燃率が低いところは不燃化に向けていろんな取り組みをすとか、広場が不足しているところは積極的にオープンスペースを確保していくといった取り組みも必要になります。

特に、吉祥寺東町の場合は、道路が短冊形で、細長い道がずっとつながっていて、隣の道に行くのにはぐるっと回らないといけませんので、避難のときに、家の敷地の中でも移動できる場所があるのであれば、それは事前に協力を要請していくのも一つのアイデアかもしれません。しかし、いざ、火事が起こって逃げなければならないというときは、そういうところを無視してどんどん行ってください。まず命を守るのが先決ですので、断らないで結構です。責任は私が持ちます。



【ご意見】

物置などが設置してあると通れない。だから、事前にどこか避難路を確保していただく必要がある。

【市長】

現状では避難できないということですよ。ただ、避難動線がかなり長いという課題もありますので、そういうことを含めて、ぜひ一緒に研究していきましょう。

第三中学校については、体育館が避難所になっていて、階段を使わないといけないという課題も認識しています。ただし、介護が必要な方には、二次避難所として、福祉施設を予定していますので、そちらに誘導していくことになります。

赤ちゃん対策は、なかなか難しいかもしれません。確かに環境に慣れていない子どもたちは不安で泣くという場面も多々あります。そういう避難所のすみ分けについては、もう少し研究をしていきたいと思います。

避難所に関連して、もう一つ課題なのは、ペットですね。市内でペットを飼われている方が多いのです。市内で、犬は1万匹ぐらい飼われていますので、獣医の皆さんと今いろいろ研究をしているところです。

13. 屋外広告物について

【ご意見】

吉祥寺南町に住んでいる。先日、立川断層を震源とした地震があった。数年前に吉祥寺のまちをタウンウォッチングしたときに、看板が気になる箇所があった。崩れてしまいそうな看板や、屋上の看板、壁面の看板もある。路上に大きく出ている看板もすごくある。この武蔵野市で大地震が起きた場合、吉祥寺のまちの看板は、安全になっているのだろうか不安に感じたので、そのあたりのことをお聞かせいただければと思う。

【市長】

看板についても、大変気になるところでして、先日も吉祥寺のとある看板の一部がはげ落ちた事例がありましたが、基本的には、一定規模以上の看板はきちんと構造計算もして、市の確認もとって掲出をされているのです。しかし、一定規模以下のものについては、届け出



がないものが多々ありますので、それはなかなか市としてもチェックがしづらい状況にありますが、危険そうなものがありましたら、市に一報いただければ、指導をしていきたいと思えます。広告物は、東京都の屋外広告物条例に基づいて設置されていますので、市の権限が及ばず、なかなか融通がききにくい面があります。将来的には、市で広告物条例の基準を持つことによって、安全な設置に向けた指導をしていければと思います。

14. 新型インフルエンザ対策について

【ご意見】

桜堤に住んでいる。鳥のインフルエンザがパンデミック（※）になるということは確実視されていて、これがいつ起きるのか時間の問題だと言われている。企業のほうの対策がどれぐらいされているかというところ、約6割が対策を全然していないという調査結果がある。なぜかというところ、一つの企業の対策の枠を超えてしまうので、あきらめるしかないからだ。その中で、自治体あるいは国のほうの指示に従うというところもある。武蔵野市の中にも大きな事業所、集会所、駅、人が集まる場所がたくさんあるので、万が一パンデミックが起きるようなフェーズ4、フェーズ4A、フェーズ5となった場合に、どういう行動指針やガイドラインを持っているのかを教えてください。

【市長】

新型インフルエンザについては、なかなか厳しい課題でして、今、対策が十分にできてはいません。しかし、市としては、市長のほか、警察署長・消防署長・消防団長・保健所長で構成する「生活安全会議」の中で、その取り組みについて検討を進めているところです。

(※) パンデミック…感染が、世界的な規模で広範かつ急速に流行する状態。

体的な話は、防災安全部長からお話します。

【堀井防災安全部長】

この新型インフルエンザは、非常に大きな問題だと十分承知していきまして、現在、市役所の安全対策課と健康課が共同で取り組んでいます。現在は、そういうものが起こった場合の基本計画までできています。基本計画では、フェーズごとにこういう課題がある、こういうことをしなければいけない、それをどこの課がやる、ここまでは決まっているんですが、その先の、その課が具体的にどういう手順でどういうような手段を用いてやるか、これはまだできておりません。今後の課題になっております。

今一番の課題は、2つありまして、1つは発熱センターです。発熱センターをどこに設けるか、それをだれがどうやって運営していくのか。外来患者、新型インフルエンザの患者だけは、他に感染しないように別の診療場所で診なさいという大きな方針があります。その発熱センターをどこに設けるか、市内1カ所でもいいのか、中学校地区に1カ所設けなければいけないのか、これが課題としてあります。

もう一つは、対市民用のタミフル（インフルエンザ治療薬）を中心とする対応策です。これは、すべてのインフルエンザに効くとは限りません。事前に飲んでいただく場合も、必ず効くということではなく、効く可能性があるということの備蓄になりますので、これをどの程度の分量を揃えていくか、経費のかかる話でもありますので、平成 21 年度予算の要求事項の中に盛り込んで検討していきます。国のほうは、現在、移動制限ということでの対策を重視しています。これについては学者からの批判もあって、現実には今の社会では難しいのではないかと。対症療法的なタミフル等の医薬品により、発生初期、フェーズの低い段階で一斉に押さえ込むのが一番いいのではないかとという意見があります。私どももそのほうがより適切であると考えています。武蔵野市で全員電車に乗ってはいけないと言っても、なかなか難しい話だと思いますので、タミフルの備蓄も含めて、来年度の予算の課題として検討しています。



15. ハモニカ横丁のトイレについて

【ご意見（ハモニカ横丁祥和会）】

ハモニカ横丁では、夜警もお願いしてやっている。バケツを 15 杯ぐらい積んであって、それを今度は消火器にかえようということで、武蔵野消防署吉祥寺出張所へ行ったら、消防署ではそういう援助は一切やらないと言われた。自分たちでやってもらうということだが、市で何か援助ができるようなことがあったらお願いしたい。

それから、便所については、駅前のサーティワンのところに昔トイレがあった。それを市がなくなってしまって、今度は、南口の公衆トイレがなくなり、現在、公衆トイレが武蔵野市にはない。デパートとかスーパーが開いているときは、みんなそこに入るが、店が閉まって

いる時間帯には、タクシーやバスの運転手は、ハモニカ横丁の便所に駆けて来る。私は、埼玉県の飯能に住んでいるが、どこへ行っても立派なトイレがある。武蔵野市にトイレがないなんておかしい。

【市長】

ハモニカ横丁の件は、同じ質問なので、また議論をしていきましょう。あそこは大変魅力的な町並みであることは間違いないので、その雰囲気を持したうえで、いかに安全を生み出せるかどうかについては、市としてもできる範囲でぜひ考えていきたいと思います。皆さんもぜひ取り組みのほど、よろしくお願いします。

(5) 閉会のあいさつ

【市長】

夜分にもかかわらず多くの皆さんに参加いただきまして、ありがとうございました。

市民の安全を守るというのは、市役所の大きな役割だと認識はしていますが、市役所だけでは皆さんの安全を完璧に守ることはできません。市と市民で、ともにいろいろな知恵と力を出し合いながら、このまちの安全確保をお願いしたいと思っております。

少し自慢をしますと、多摩26市の中でいろんな防災の取り組みがありますが、武蔵野市は極めて頑張っているというデータがあります。今日もなるほどと思う意見がありましたので、それを踏まえて、安心・安全な取り組みをより充実していきたいと思えます。

ハモニカ横丁の皆さんに来ていただきました。大変課題の大きい街区ではありますが、吉祥寺にとって、武蔵野にとって大切な場所ですので、ともに安全なまちづくりについて議論をしていきましょう。

本日はどうもありがとうございました。



2. アンケートでいただいたご意見と市の回答・対応方針

分類	番号	ご意見等	市の回答・対応方針
地域防災力	1	防災態勢の強化で、地域組織の確立が取り上げられているが、どのように地域組織を構築するか。何処に要支援者がいるのかも不明であり、守秘義務の面で難しい面があるのではないかと。	地域組織の構築については、自主防災組織の育成・活動支援および各地域の団体の訓練等の後援などを通じて行っています。 また、市では「災害時要援護者避難支援モデル事業」に取り組んでおり、地域社協や自主防災組織に支援団体としてご協力をお願いしています。この事業は、市が要援護者を特定した後、支援団体(地域社協等)に支援者を捜していただくのですが、現在、事業を実施している2地区(吉西・東部福祉の会)では、支援者がほぼ決定されています。守秘義務について、支援団体と支援者からは、個人情報保護に関する誓約書等を提出していただき、個人情報の取り扱いに十分に注意を払いながら事業を行っています。市内全域での取り組みについては、今後、地域の特性等を踏まえたくうえで、検討していく予定です。
ハモニカ横丁	1	吉祥寺駅北口のハモニカ横丁は、ガス・水道が不備のため、災害に大変弱いので、インフラを再整備するにあたっては、市に最大限のご協力をお願いしたい。市の考えを聞かせてほしい。	ハモニカ横丁は、民間の一敷地内にある商業施設の集合体です。多くの権利者の方々が関わっているため、ハモニカ横丁の関係権利者の合意形成等については、非常に困難な状況にあると伺っております。そのため、災害に強いまちづくりに向けて合意形成が図れるよう、関係者の方々と協議しながら、市としても支援を続けていきます。 また、地域内の態勢の整備状況に合わせて、大型消火器等、地域の状況に適した防火設備を検討のうえ、整備していく予定です。
災害弱者	1	お年寄り、認知症のある方、障がい者、赤ちゃんなど、災害弱者の視点で防災計画を作る必要が急務である。その意味でも、計画作成時に災害弱者の方々を加えてほしい。	災害時要援護者といわれる方への対策については、地域防災計画にも、地域の安全体制の確保や震災時の活動を定めています。 詳細な計画や活動については、市の各部署でも検討して、地域の方と連携を図りながら、調整していきます。
防災倉庫	1	桜堤3丁目の上水北公園に防災倉庫や防災機具を設置してほしい。	防災資機材を備えた防災倉庫については、防災広場を中心に設置を進めています。 管理等をお願いするために、まず自主防災組織の訓練活動などの支援から行っていく、組織の習熟度をみながら、順次資機材等の貸与を行っています。

分類	番号	ご意見等	市の回答・対応方針
活断層	1	武蔵野断層もあると聞いたが、本当か？	東京都内では、青梅市・瑞穂町・武蔵村山市・立川市を経て国立市までの、ほぼ北西から南東方向に連なる「立川断層」が報告されています。都内の関東平野下に、未発見の活断層が存在する可能性はありますが、A級の活動度をもつような活断層が存在する可能性は低いといわれています。
防火水槽	1	自分の住んでいるマンションは、中町北公園の用地を市に提供しており、この公園の消防用の地下タンクが設置されている。この地下タンクの水は25年間入れ替えられていないが、マンションの受水槽にも、このタンクからの水が混入しているおそれがあり、飲料水にも影響が出ていると思う。地下タンクの水を定期的に入れ替えるとともに、清掃を行ってほしい。	【※19ページ 確認結果】 現地も確認しましたが、中町北公園内の防火水槽は、マンションの受水槽と直結する構造になっていないため、防火水槽の水が混入することはありません。
	2	御殿山2丁目の横河電機の社宅跡地に、マンションが建設されているが、そこに設置されていた防火水槽はどうなったのか知りたい。	【※21ページ 確認結果】 「武蔵野市宅地開発等指導要綱」に基づき、防火水槽40トンを設置する予定です。なお、以前、横河社宅に設置されていた防火水槽も40トンでした。
防災無線	1	緊急地震速報を防災無線で流して欲しい。	現在、防災無線は、大雨警報発令時や、5時のチャイム等に放送しています。緊急地震速報は揺れが始まる数秒～数十秒前に放送されることや、防災無線のスピーカーから無線放送するまでの時間差、放送音の明瞭度などを考慮すると、一斉放送には適さないと考えています。
情報提供	1	市の防災対策をもっと宣伝してほしい。	市の防災対策・防災態勢については、市報・ホームページ・むさしのFM・ケーブルテレビにより、また、訓練や地域でのイベント等の際に、広報を行っていますが、これからも関係機関や地域の皆様の場を通じて、広報・啓発に力を入れていく予定です。
防災情報システム	1	防災安全センター完成で、おそらくコンピュータシステムも新しくなっただろうし、市のIT活用体制はアップデートされたかと思ったが、一向にそれが感じられない。	防災安全センターには、「防災情報システム」を導入しており、さまざまな機能がありますが、災害時の被害情報・避難所情報や物資要請・職員の参集などに活用できるシステムとして、平常時から各部署の職員とともに研修などを行っています。庁内の体制としては、平成20年度から3年間を計画期間とする「第二次総合情報化基本計画」に基づいて、「ITを活用したサービスの拡大」「事務事業のIT化の推進と効率化」「既存システムの費用対効果の視点での見直し」「情報セキュリティの徹底」等の課題の解決を着実に進めていきます。

分類	番号	ご意見等	市の回答・対応方針
空き地の管理	1	<p>御殿山2丁目の日本生命社宅跡地のところは、草の丈が2メートルぐらいに伸びている。閉鎖されてはいるが、もしもあそこで、子どもが入り込んだりしたら、目につかないのではと不安を感じている。何とかしてほしい。</p>	<p>平成20年9月18日に、現地確認を行ったところ、雑草が一部フェンス脇に2mほど伸びている状況でしたが、周囲はより高いフェンスで囲まれており、比較の見通しが良い状況でした。しかしながら、放置されると、雑草は生い茂る状態になりますので、一般的な管理のほか、安全性を向上できないかを所有者に問い合わせたところ、所有者からは、定期的に巡回し、現在、除草の準備を行っているところであるという回答を得ています。</p>
新型インフルエンザ	1	<p>本日のテーマ討議内容が地震、火災対策に偏っていたが、鳥インフルエンザのヒトへの感染の爆発的流行(パンデミック)は発生確実視されている中、企業の6割は諦めの状態であり、自治体の対策が必須である。特に、駅・集会所・大規模事業所の対応、タミフルの備蓄、防疫、日赤との協力、市民の行動規制などなどの基準が必須。さらに市民への啓蒙、国との連携などなどのガイドラインが必要ではないだろうか。</p>	<p>市では、平成19年11月に対策の基本を取りまとめた「武蔵野市新型インフルエンザ対策行動計画」を策定しました。現在、より具体的な各課の対応マニュアルを作成中です。また、今後は、医師会等関係機関と医療体制確保について打合せを行っていく予定です。</p>

3. アンケートでいただいた感想

※アンケートの自由回答欄でいただいた感想のうち、主なものを掲載しています。

◆ 地域の防災態勢について	
1	市内各域の課題が少し分かった。また、市民の問題意識の高さも知ることができた。
2	各地域活動状況がよくわかりました。
3	各地域によって問題視しているポイントが異なると感じた。
4	同じ武蔵野市内でも、地域によって地理的な違いなどから、防災上のニーズが違うことがわかった。
5	各地域の好事例を参考にすることにより、よりよいまちづくりができると感じた。
6	場違いな意見もあったが、情報が、特に高齢者宅には届きにくいと思う。
7	実際の現場を体験している方々が少ないと思った。もっと現実的な課題・問題点があるはず。
8	市民間での話し合い、自主的な努力が必要と感じた。
9	防災訓練には一般の方の参加が少なすぎるので、全コミセンで今日のテーマで話し合っしてほしい。
10	各地域に防災組織を持ち、それぞれに活動はしているが、市全体で共通認識を持つことはとても大切に思うし、どこの場所で災害にあうかわからない。各地域で、中高生もこれらの活動に参加することを期待する。
11	弱者対策として、視覚障がい者への点字マニュアルが救急協会できた。ただ、中途失明の方へは音声化の必要があると思う。他に聴力、外国の方への対応も考えていただけるとよい。市内の子育て支援施設0123・テンミリオンハウス・高齢者施設ごとに、対応の工夫も必要であると思う。
12	防災は地域力が大事。各地域で頑張ろう。
◆ 災害に強い都市基盤の整備について	
1	耐震設備を早急に。救助中心となる消防署が心配。
2	金がかかることになると市の補助をあてにした発言あった。日本人もレベルが下がった。
3	ハモニカ横丁のトイレの件について、買い物客としては、ロンロンやデパート等で利用している。夜間に飲んでいるお客さんは、お店の方々が共同で良いトイレを準備したらよいのではないかと。一般市民には特に切実ではないので、何でも市にお願いするのはいかなものか。商店としての自主的な取り組みを期待する。頑張れ！
4	何か自慢めいた話が多く、鼻白む思い。ハモニカ横丁の役員、要望が多過ぎないか。もっと自主的意向を反映させた意見がほしい。
5	目指すべき「減災」のスタイルがわかった。
◆ タウンミーティングについて	
1	市の取り組み等、聞くことができた。
2	時間が少な過ぎた。

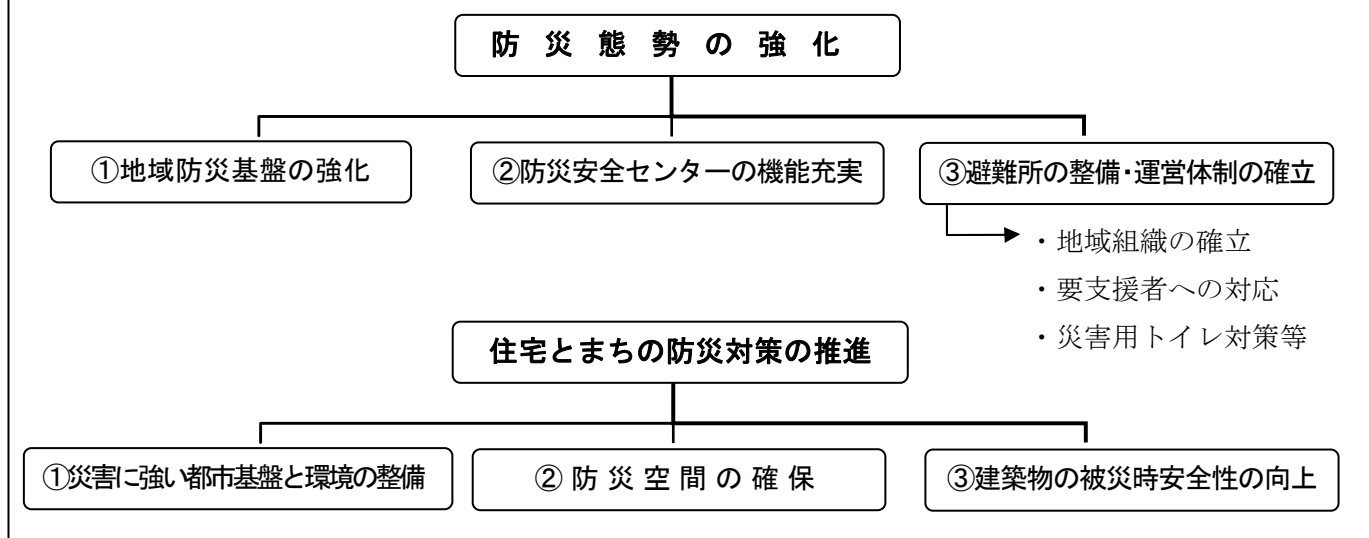
◆ タウンミーティングについて	
3	浅過ぎた。もっと多くの時間を使うべき。
4	小さいテーマを出して、発言を集中させた方がよかった。
5	一部の団体の意見ばかりで、一般市民の意見をもっと聞くよう、司会者が判断をしていただきたかった。
6	テーマ別の方が参考になった。
7	今後も出来るだけ多く開催してほしい
8	防災についてはもっともっと会合をしてほしい。また、市報にも具体的に今日の内容を載せてほしい。
9	お互いに関わっている話が聞けてよかった。
10	身近な問題なのでよかった。
11	質問慣れしている人がうらやましかった。

第21回 市民と市長のタウンミーティング（テーマ：災害に強いまちづくり）

【武蔵野市の取り組みについて】

I 防災に関する計画・制度・事業など（最近の取り組み）

1. 武蔵野市第四期長期計画・調整計画（平成20年3月策定、平成20年度～24年度）



2. 武蔵野市地域防災計画（平成20年修正） ※地震を中心とした防災計画

＜武蔵野市直下型地震の場合＞（M6.9、震源の深さ10km、震度6弱～一部6強、冬季17～19時）

※参考：阪神・淡路大震災（M7.2、震源の深さ16km）

[被害想定]

死者	19人	火災	15件
重傷者	440人	避難者	2,207棟
軽傷者	8,432人	帰宅困難者	4万9千人
建物全壊棟数	797棟		約3万人

[特徴的事項]

- ① 減災目標の設定（死者の半減、避難者の半減、外出者の早期帰宅）
- ② 市、市民及び事業者の基本的責務
- ③ 災害予防計画の強化
- ④ 非常配備態勢等の初動態勢の見直し
- ⑤ 帰宅困難者を含めた外出者対策の強化
- ⑥ 災害時要援護者対策の強化
- ⑦ 防災活動に関する実施計画
- ⑧ 災害復興計画の充実
- ⑨ 付編：風水害対策など

3. 武蔵野市耐震改修促進計画（平成 20 年度～27 年度）

[基本方針等]

①耐震化率の目標

- ・ 防災上重要な市有建築物 128 棟（85%→**100%**）
- ・ 住宅 62,900 戸（78%→**90%**）
- ・ 民間特定建築物※172 棟（70%→**90%**） ※一定規模以上の民間の学校・病院・商業業務施設等

②基本的な取り組み方針

- ・ 耐震診断、耐震改修の促進
- ・ 市民、関係団体、行政の役割分担と連携
- ・ 促進のための施策充実

4. 各種支援制度

①建築物の耐震化促進助成制度

- ・ 民間住宅耐震診断助成
- ・ 耐震改修助成
- ・ 民間建築物耐震診断助成
- ・ 小規模事業者建替促進信用保証料補助
- ・ 安全賑わいのあるまちづくり促進型耐震助成
- ・ 固定資産税の減免

②家庭での災害予防助成制度

- ・ ブロック塀等の改善助成
- ・ 家具転倒防止金具取付補助事業
- ・ 家庭用消火器等購入助成制度
- ・ 住宅用火災警報器設置助成

③水害対策への助成制度

- ・ 雨水浸透施設設置助成制度など

5. 整備事業など

① 防災安全センターの整備

※平成 19 年 7 月竣工(右写真)

② 防災広場の整備

③ 災害用トイレの整備（避難所・公園）

④ 公共施設の耐震補強

※来年 9 月までに全小中学校完了予定

⑤ 大型雨水貯留浸透施設の設置

※平成 23 年度までに全小中学校に設置予定

⑥ 消防団詰所、消防ポンプ車、防火水槽、 消防水利の整備充実



市役所西棟
防災安全センター

Ⅱ 市の災害対策・活動について

1. 災害時の職員態勢

- ①警戒態勢（第1～3）
- ②応急対策本部（第1～2）（台風・大雨への対応）
- ③災害対策本部の設置 ⇒ 非常配備態勢（全職員・大地震等への対応）

2. 休日・夜間等における災害発生時の緊急態勢

	震 度	参 集
緊急初動態勢	5弱以上	初動要員（市内近隣在住職員約160人、20避難所）
特別非常配備態勢	6弱以上	全職員自発的

3. 防災行政無線

- ①固定系無線局：屋外拡声子局41カ所 個別受信機97カ所
（市民への情報伝達）
- ②地域防災無線局：143局
（防災関係機関・生活関連機関・医療機関等との相互通信）

4. 応急給水・災害時用備蓄品

- ①応 急 給 水：浄水場2箇所、震度5弱以上で7,000トン確保、非常災害用給水施設23カ所
- ②災害時用備蓄品：避難人口約4.9万人2日分、市庁舎・一時避難場所他31カ所で備蓄

5. 避難所

一時集合場所・避難場所	20カ所
広域避難場所	5カ所
防 災 広 場	5カ所

6. 訓 練

- ・総合防災訓練
- ・水防訓練
- ・初動地域訓練
- ・ボランティア訓練
- ・地域訓練への支援



7. 消 防

- ①消 防 団：10個分団260名が消防署と連携
～地域に密着した防災活動組織～
- ②消 防 水 利：防火水槽・361基、消火栓・914基 ※平成20年3月現在
- ③地域設置消火器：1,522本 ※防災推進員が定期的に点検
～市内の道路沿いに60m間隔を目標に設置～

8. 市民防災協会

防災推進員（102名）の活動拠点

市民の防災思想の普及・高揚、実践的防災行動力の向上を図り、地域社会の安全と福祉の増進に寄与

9. 各種協定等（主な協定の相手方）

- ・米穀小売商組合（主食）、東京むさし農協（農地の使用及び生鮮）
- ・イトーヨーカドー、コメリ災害対策センター
- ・友好都市（酒田市、安曇野市）、東京都市町村、全国青年市長会
- ・医師会、薬剤師会、歯科医師会、接骨師会
- ・建設業協会、トラック協会、管工事業組合、水道工事店、市水道部、秋本清掃し尿処理
- ・市民社会福祉協議会、国際交流協会、むさしのFM、ケーブルテレビ
- ・横河電機、郵便局、石油商業組合、アマチュア無線クラブなど

Ⅲ 災害に強いまちづくりに向けて

まちの防災対策の推進

<まち全体を災害に対し強いまちに変えて行く。防災から減災へ！>

- ①災害に強い都市基盤の整備
- ②建築物の耐震性の向上
- ③防災空間の確保

地域の防災力の向上・防災態勢の充実

<自分の命・自分のまちは、自分たちで守る>

- ①避難所の整備・運営（地域住民が主体となる避難所運営）
- ②地域で支える災害時要援護者対策
- ③自主防災組織の充実



第21回 テーマ別



市民と市長の タウンミーティング

「災害に強いまちづくり」について、市民の皆様と市長が意見交換を行います。
お気軽にご参加いただき、あなたの声をお聞かせください。

主
役
は
市
民
で
す

- **テーマ** 災害に強いまちづくりについて
- **期 日** 平成20年8月20日(水)
- **時 間** 午後7時～9時
- **会 場** 武蔵野商工会館 4階市民会議室
(武蔵野市吉祥寺本町1-10-7)
- **主 催** 武蔵野市
- **協 力** 武蔵野消防署、武蔵野市民防災協会、
自主防災組織

- ◆ **申 込** 当日、直接会場へお越してください。
- ◆ **出席者** 市民の皆様、市長、市関連部長
- ◆ **備 考** お車でのご来場はご遠慮ください。

問い合わせ◎武蔵野市 企画政策室 市民協働推進課
Tel.0422-60-1829 Fax.0422-51-2000

<テーマ別>

第21回 市民と市長のタウンミーティング

災害に強いまちづくりについて

テーマ1



【むい〜ぼう】
武蔵野市民防災協会
マスコットキャラクター

地域の防災力の向上・防災態勢の充実について

避難場所の整備・運営

災害時要援護者対策

自主防災組織の充実

テーマ2



まちの防災対策の推進について

災害に強い都市基盤の整備

建築物の耐震性の向上

防災空間の確保

当日参加できない方で、上記のことについて、市長にご意見・ご要望のある方は、下記枠内にお書きになり、市役所（2階）市民協働推進課、または各市政センターにお届けいただくか、FAXで市民協働推進課（0422-51-2000）にお送りください。

第21回

【テーマ別】

市民と市長のタウンミーティング
～災害に強いまちづくり～

報 告 書

発行 平成20年10月
武蔵野市企画政策室市民協働推進課
武蔵野市緑町2丁目2番28号
電話(0422)60-1829 (直通)